6．7 簡易サーボロック機能の設定

6．7．1 簡易サーボロック機能を動作させる

F108：常時動作機能選択２
F257：サーボロック機能 禁止／許可
F930：サーボロックゲイン

機能
・運転動作の待機中（運転停止している期間）、ＩPMギアモータが回転しないように位置保持制御を行います。

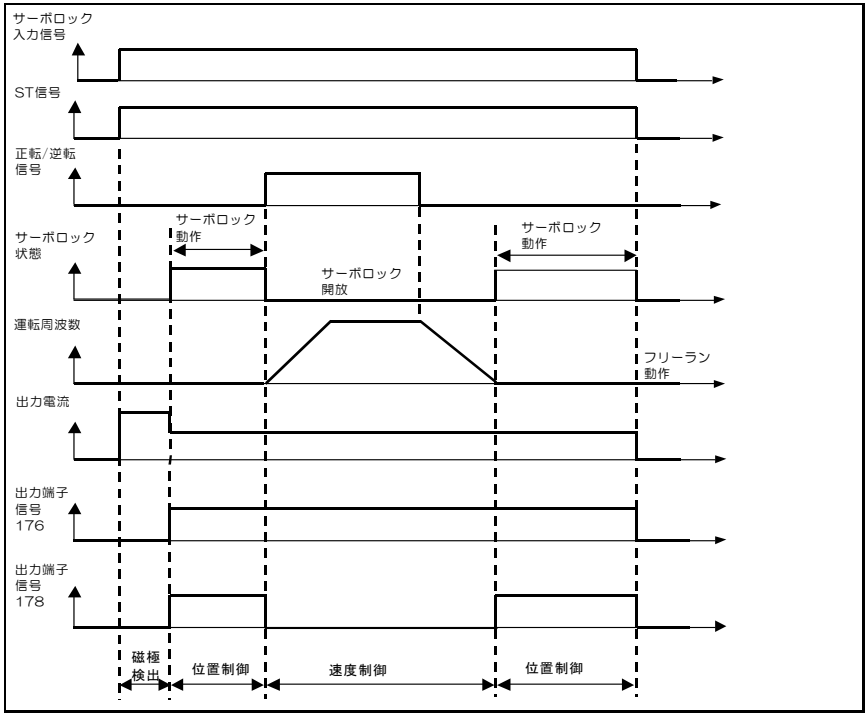
[パラメータ設定]

タイトル	機能	調整範囲	標準出荷設定値
F108	常時動作機能選択２	0～153	70 (サーボロック入力)
F257	サーボロック機能 禁止/許可（運転中切替え可能）	0：禁止 1：許可	0
F930	サーボロックゲイン	1～250%	100

6

☆サーボロック機能を動作させる場合、サーボロック機能F257を1（許可）に設定してください。
☆F930でサーボロック中の負荷変動に対する応答性を調整できます。詳しくは6．16項を参照してください。
注1）F257パラメータは運転中の切替え可能です。切替え時はＩPMギアモータ動作に注意して切替対応してください。
☆標準出荷設定では F108(常時動作機能選択 2)に機能番号 70(サーボロック入力)が割り付けられていますので、F257=1 に設定すると運転停止中にサーボロック機能が常時動作するようになります。入力端子にてサーボロック機能を ON/OFF させたい場合は、空いている入力端子に機能番号 70 または 71(70 の反転信号)を割り付け、F108 に 0(割付け機能なし)などの別の機能を割り付けてください。
☆サーボロック入力信号ONして動作開始までに、磁極検出時間（位相検出時間）約0.15ｓｅｃを要します。その後サーボロック動作を実施します。
☆運転信号ON入力にて、サーボロック機能は解除されます。運転指令が優先します。
☆サーボロック動作中は、モニタ表示に“Ｓｒｖｏ”を表示します。
☆出力端子選択に、“サーボロックブレーキ信号176、177（176の反転信号)”あるいは“サーボロック動作信号178、179(178の反転信号)”を割り付けることで、サーボロック動作の確認などが行えるようになります。

注2）サーボロック動作中、モータは駆動していませんがインバータ機器はＩPMギアモータが停止するように動作をしていますので、主回路端子台等に触れまして感電しないようにご注意してください。
注3）ブレーキ機能モード選択F341が3（有効）に設定された場合、簡易サーボロック機能は動作しません。ブレーキ機能モード選択を優先します。操作にご注意してください。
注4）ブレーキ付ＩPMギアモータで簡易サーボロック機能を使用する場合、ブレーキ開・閉のタイミング信号は“サーボロックブレーキ信号176、177（176の反転信号)”をご使用ください。
注5）ブレーキ付ＩPMギアモータにおいて、ブレーキ無通電（ブレーキ閉）時に長時間サーボロック状態にしないでください。モータ電流が増加し、過負荷トリップする場合があります。



☆『入力端子機能記号６：ST 信号(運転準備)』と『入力端子機能記号 70：サーボロック入力』の両方が動作(ON)していないとサーボロック機能は動作しませんが、ST 信号(運転準備)は工場出荷時に F110(常時動作機能選択３)に割り付けられていますので、『入力端子機能記号 70：サーボロック入力』の ON/OFF を行うだけでサーボロック機能の動作を行うことができます。